

## りんじんのけんり



## しんあいなる しんこうしゃのみなさま！

アッラー（スプハーナワタアラー）はわたしたちを、うまれてからしぬまで、ひとびとにまじっていきっていくようそうぞうなさいました。このじんせいのなかでわたしたちは、ときにはこんなにもみまわれることも、またときにはかなしみをのりこえてゆかねばならないこともあります。またときにはよいことにめぐまれて、よろこびにみちたりもします。そのようなとき、わたしたちはまわりのひとたちときもちをわかちあいたくなります。りょうしんやはいぐう、こどもたち、しんせきやしんるいとおなじように、りんじんにもともにいてほしいとおもうものです。

りんじんとは、たんにきよりがちかしいというだけではありません。りんじんとは、かべ1まいをへだてたそんざいといういみではなく、こころでつながっていることをいみします。よいりんじんをほしがるまえに、じぶんがよいりんじんであれといういみです。けいいをもち、わかちあい、ひとのためになることをし、せんさいであれといういみです。りんじんをしいたげたり、りんじんのめいよやそんげん、ていせつについてわるくいたりしないことです。あるハディースのなかで、よげんしゃはつぎのようにかたっています。「だれであれアッラーとしゅうまつひをしんじるものは、りんじんをきずつけたり、こまらせたりしてはならない。」<sup>1</sup>

## しんあいなるムスリムのみなさま！

ざんねんなことにせぞくてき、こじんしゅぎてき、そしてりこてきであることがますますじゅうようになっていくなかで、きんじょづきあいはひにひによわまっています。しかし、アッラーのしとのけいこくはひじょうにめいかいです。「あなたのりんじんにたいしてしんせつにしなさい。そうすれば、あなたはしんこうしゃになるだろう。」<sup>2</sup>

## しんあいなる しんこうしゃのみなさま！

りんじんのけんりについてたずねられたよげんしゃは、つぎのようにかたえました。「びょうきになったら、みまいにいきなさい。なくなったら、そうぎにおもむきなさい。かしてくれとたのまれたら、かしてやりなさい。たすけをもとめられたら、たすけてやりなさい。よいことがあったなら、ねたむのではなくよろこびなさい。わるいことがあったなら、ともになしなさい。」<sup>3</sup>ですから、じぶんのりんじんにたいするせきにんがいかにおおきいかをしりましょう。りんじんのけんりをまもり、ささえましょう。たがいにこころをひらいて、あいじょうとせいをわかちあいましょう。「アッサラーム・アライクム」といわずにすれちがうことのないようにしましょう。りんじんかんけいをそこなうおそれのあるあらゆるふてきせつなげんどうをさけましょう。しんぼうづよく、かんようでありましょう。「アッラーのみもとにおいてもっともすぐれたりんじんとは、じぶんのりんじんにたいしてもっともすぐれたものである」<sup>4</sup>ということをわすれないようにしましょう。

<sup>1</sup> Tirmidhi, Zuhd, 2.

<sup>2</sup> Tabarani, Mu'jam al-Kabir, XIX, 419.

<sup>3</sup> Tirmidhi, Birr, 28.

<sup>4</sup> Tirmidhi, Birr, 28.